

## 本文

## 【白文】

孟子曰、人皆有<sub>二</sub>不忍<sub>レ</sub>人<sub>一</sub>之心<sub>二</sub>。……所以<sub>四</sub>謂<sub>三</sub>人皆有<sub>二</sub>不忍<sub>レ</sub>人<sub>一</sub>之心<sub>二</sub>者、今人乍見<sub>三</sub>孺子將<sub>レ</sub>入<sub>二</sub>於井<sub>一</sub>、皆有<sub>二</sub>怵惕惻隱<sub>レ</sub>之心<sub>二</sub>。非<sub>レ</sub>所以<sub>レ</sub>内<sub>レ</sub>交<sub>二</sub>於孺子<sub>一</sub>之父母<sub>二</sub>也、非<sub>レ</sub>所以<sub>レ</sub>要<sub>二</sub>譽<sub>レ</sub>於郷党朋友<sub>一</sub>也、非<sub>下</sub>惡<sub>二</sub>其声<sub>一</sub>而然<sub>上</sub>也。由<sub>レ</sub>是觀<sub>レ</sub>之、無<sub>二</sub>惻隱<sub>レ</sub>之心<sub>一</sub>、非<sub>レ</sub>人也。無<sub>二</sub>羞惡<sub>レ</sub>之心<sub>一</sub>、非<sub>レ</sub>人也。無<sub>二</sub>辭讓<sub>レ</sub>之心<sub>一</sub>、非<sub>レ</sub>人也。無<sub>二</sub>是非<sub>レ</sub>之心<sub>一</sub>、非<sub>レ</sub>人也。惻隱之心、仁之端也。羞惡之心、義之端也。辭讓之心、礼之端也。是非之心、智之端也。人之有<sub>二</sub>是四端<sub>一</sub>也、猶<sub>三</sub>其有<sub>二</sub>四体<sub>一</sub>也。……凡有<sub>二</sub>四端<sub>レ</sub>於我<sub>一</sub>者、知<sub>二</sub>皆擴而充<sub>レ</sub>之矣、若火之始然、泉之始達。苟能充<sub>レ</sub>之、足<sub>三</sub>以保<sub>二</sub>四海<sub>一</sub>。苟不<sub>レ</sub>充<sub>レ</sub>之、不<sub>レ</sub>足<sub>三</sub>以事<sub>二</sub>父母<sub>一</sub>。

## 【書き下し文】

孟子曰く、人皆 人に忍びざるの心有り。……人皆 人に忍びざるの心有りと謂ふ所以の者は、今 人 乍ち孺子の將に井に入らんとするを見れば、皆 怵惕惻隱の心有り。孺子の父母に内交する所以に非ざるなり、譽を郷党朋友に要むる所以に非ざるなり、其の声を惡みて然るに非ざるなり。是に由りて之を觀れば、惻隱の心無きは、人に非ざるなり。羞惡の心無きは、人に非ざるなり。辭讓の心無きは、人に非ざるなり。是非の心無きは、人に非ざるなり。惻隱の心は、仁の端なり。羞惡の心は、義の端なり。辭讓の心は、礼の端なり。是非の心は、智の端なり。人の是の四端有るや、猶ほ其の四体有るがごときなり。……凡そ四端の我に有る者、皆 擴めて之を充たすを知れば、火の始めて然え、泉の始めて達するがごとし。苟くも能く之を充たさば、以て四海を保つに足る。苟くも之を充たさざれば、以て父母に事ふるに足らず。

## 【語注】

- ・忍びざるの心＝他人の不幸を見過ごせない、いたわりの心。
- ・乍ち＝とつさに、ふと。
- ・孺子＝幼い子ども。
- ・怵惕（じゅつてき）＝はっとしておそれ、はらはらすること。
- ・惻隱（そくいん）＝あわれみ、いたみ悲しむ心。
- ・内交＝親しい交わりを結ぶこと。
- ・要む＝求める。
- ・郷党＝郷里の人々。
- ・端＝芽生え、いとぐち、始まり。
- ・四体＝両手両足。からだ。
- ・擴めて充たす＝おし広げて十分に發揮する。
- ・四海＝天下、世界中。

## 設問

1. 「孺子」とは何を指すか、漢字二字で答えなさい。
2. 「怵惕惻隱之心」が起こるのは、何かの見返りを期待してではないと孟子は言う。本文中で否定されている動機を、次の中からすべて選びなさい。
  - ア 子どもの父母と親しくなるようとするため
  - イ 郷里の友人からほめられようとするため
  - ウ 子どもを助けて礼金を得るため
  - エ 子どもの泣き声を不快に思ったため
3. 「羞惡之心」とはどのような心か、簡潔に説明しなさい。
4. 「辭讓之心」とはどのような心か、簡潔に説明しなさい。
5. 「是非之心」とはどのような心か、簡潔に説明しなさい。
6. 次の「四端」と、それが出発点となる「四徳」との対応を、それぞれ漢字一字で答えなさい。
  - (1) 惻隱之心 —— ( ) の端
  - (2) 羞惡之心 —— ( ) の端
  - (3) 辭讓之心 —— ( ) の端
  - (4) 是非之心 —— ( ) の端
7. 傍線部「人皆有不忍人之心」について、「不忍人之心」を書き下し文に直しなさい。
8. 「不忍人之心」とはどのような心か。本文の語注をふまえて十五字以内で説明しなさい。
9. 「今人乍見孺子將入於井」を現代語訳しなさい。
10. 「乍」の読み（ひらがな）と意味を答えなさい。
11. 「非人也」を書き下し文に直しなさい。

12. 「無惻隱之心、非人也」を現代語訳しなさい。
13. 「端」とはここではどのような意味か、漢字二字または平易な語で答えなさい。
14. 「人之有是四端也、猶其有四体也」について、孟子は四端を何にたとえているか。本文中の語を抜き出して答えなさい。
15. 前問のたとえによって、孟子は四端が人にとってどのようなものだと言いたいのか。簡潔に説明しなさい。
16. 「若火之始然、泉之始達」は、四端をどうすることのたとえか。本文中の語（漢字）を用いて答えなさい。
17. 「苟能充之、足以保四海」を現代語訳しなさい。
18. 孟子が「孺子将入於井」のたとえを持ち出したのは何を証明するためか。最も適切なものを次から選びなさい。
  - ア 人は教育によってはじめて善くなるということ
  - イ 人には生まれつき善い心が具わっているということ
  - ウ 人は利益のためにのみ行動するということ
  - エ 政治によって人の心は変えられるということ
19. この文章で説かれている、人の本性は善であるとする孟子の考え方を何というか。漢字三字で答えなさい。
20. 孟子について、次の問いに答えなさい。
  - (1) 孟子が受け継ぎ発展させた、儒家の祖とされる思想家は誰か。
  - (2) 孟子が活躍したのは何時代か。
21. 孟子の性善説に対し、「人の本性は悪であり、努力（後天的な教化）によって善に向かう」と説いた、同じ戦国時代の儒家の思想家は誰か。